



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月31日

上場会社名 株式会社遠藤照明 上場取引所 東
 コード番号 6932 URL <https://www.endo-lighting.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 遠藤 邦彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 営業本部長 (氏名) 杉坂 真志 (TEL) 06-6267-7095
 兼管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	32,881	14.8	1,715	△30.4	2,062	△27.3	1,065	△50.0
2022年3月期第3四半期	28,637	16.4	2,463	142.6	2,836	162.9	2,132	224.4

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 3,160百万円(△8.6%) 2022年3月期第3四半期 3,459百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	72.11	—
2022年3月期第3四半期	144.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	57,426	30,960	53.9
2022年3月期	55,595	28,243	50.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 30,960百万円 2022年3月期 28,243百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	7.50	—	15.00	22.50
2023年3月期	—	15.00	—		
2023年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	43,000	5.8	2,500	△34.7	2,700	△36.5	1,900	△42.9	128.59	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 -社 (社名) 、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期3Q	14,776,321株	2022年3月期	14,776,321株
2023年3月期3Q	152株	2022年3月期	152株
2023年3月期3Q	14,776,169株	2022年3月期3Q	14,776,211株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され経済活動正常化へ動き出したものの、物価上昇の影響を受け、景気回復のペースは鈍いものとなりました。また、世界経済においては、ロシア・ウクライナ情勢長期化の影響による原材料及びエネルギー価格の高騰並びに米国における11月以降のインフレ鈍化観測による為替の急激な変動等、先行き不透明な状況となりました。

このような状況の中、当社グループは、高付加価値空間創造企業として、持続可能でよりよい社会の実現を目指し、高い省エネ性能に加え、顧客価値を創造する光の質を高めた新製品の開発、製造及び販売に注力して参りました。

業界に先駆け製品をLED化して以降、製品のエネルギー効率の継続的な改善は製造メーカーの責務と考え、さらなる高効率照明器具の開発を進めるとともに、“人と地球にやさしい未来の光”の創造に向けて、新しい価値の提供を進めております。

また、製造部門においては、環境に配慮した製品の提供を目指し、継続した品質改善活動及び原価低減活動を行うとともに、全社的な販売費及び一般管理費の抑制に努めて参りましたが、為替の急激な変動及び原材料の高騰等の影響を受けました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、32,881百万円（前年同四半期比14.8%の増収）となり、営業利益は1,715百万円（前年同四半期比30.4%の減益）、経常利益は2,062百万円（前年同四半期比27.3%の減益）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,065百万円（前年同四半期比50.0%の減益）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

a. 照明器具関連事業

当セグメントにおきましては、業務用LED照明器具分野で業界トップクラスの品揃えを実現し、高いブランドイメージの確立に努めました。

国内市場については、「LEDZ Pro.5」カタログを発刊し、無線照明コントロールシステム「Smart LEDZ Fit/Fit Plus」及び無線調光調色器具「Tunable LEDZ」の販売促進に注力しました。電力料金の引き上げや電力需給の逼迫の懸念により節電要請が強まる環境下で、既存照明器具の取り換え需要に加え、新設の商業施設やオフィス等の大型施設向け需要の取込みを強化しました。

また、自然の光、カラー演出、色味調整の三役を1台で備えた次世代無線調光調色器具シリーズ「Synca」の製品群を大幅に拡充し、東京事業所の体験型オフィス「Synca U/X Lab」を活用した積極的な販売活動を展開しました。2022年10月12日にプレスリリースいたしました通り、「Synca U/X Lab」は、2022年度グッドデザイン賞及びGrand Prix du Design Awardsを受賞しております。

さらに、2022年10月13日にプレスリリースいたしました通り、建材メーカーと共同開発した「LED照明内蔵笠木」も2022年度グッドデザイン賞を受賞しております。

海外市場については、英国において「S15」カタログを発刊し、顧客密着型の営業を強化しました。また、アジアでは、既存顧客の深耕に努めるとともにアジア向け製品「sync」と戦略商品「Synca」を活用した営業活動を推進し、設計事務所に対して高級建築市場の開拓を進めました。特にインドでは自社ショールームを開設し、高級住宅向けの営業を強化しました。

この結果、売上高は29,597百万円（前年同四半期比16.6%の増収）（セグメント間取引含む。以下同じ。）となり、セグメント利益（営業利益。以下同じ。）は1,886百万円（前年同四半期比35.4%の減益）となりました。

b. 環境関連事業

当セグメントにおきましては、流通店舗を中心にLED照明の更新提案に注力しました。昨今の急激な電気代の高騰及び初期型のLED照明のメンテナンス費用の課題を解決するため、既存LED照明から最新のLED照明への更新を提案し、店舗体験価値の向上及び消費電力の大幅な削減に貢献しました。

ろうそくの光から青空の光まで多彩な光を再現できる「Synca」を活用することで、地域の特産品に合わせたカラーや、各売場ごとのイメージカラーを演出する等、照明によって今までにない楽しい雰囲気の商品づくりに貢献しました。

また、営業活動においては動画を活用した展示会でのプレゼンテーションの再配信等、デジタルツールを活用することにも注力し、営業活動の効率向上に努めた結果、レンタル契約実績及び機器販売実績ともに対前年同四半期比で増加いたしました。

この結果、売上高は6,098百万円（前年同四半期比16.2%の増収）となり、セグメント利益は580百万円（前年同四半期比58.8%の増益）となりました。

c. インテリア家具事業

当セグメントにおきましては、オフィス市場の開拓に注力し、同市場におけるブランド確立に向けた活動を展開しました。オリジナル家具の制作及び業者開拓、環境にやさしい素材を使った商品を提案しました。

オフィスで使いやすいテーブル及びチェアを拡充し、他メーカーと共同制作したオリジナルスツール及び環境にやさしい素材を使った商材等を取り入れたカタログ「Abita Style 12 改訂版」を2022年12月に発刊し、更なるAbitaStyleブランドの認知向上を図りました。

また、国内受注生産品の強化によって納期短縮を図り、原材料及び物流コスト高騰等への対応として総コスト削減に取り組みました。

この結果、売上高は645百万円（前年同四半期比8.2%の減収）となり、セグメント損失は96百万円（前年同四半期は88百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、57,426百万円(前連結会計年度末比1,830百万円の増加)となりました。

主な要因は、「受取手形及び売掛金」の増加776百万円、「棚卸資産」の増加412百万円及び「有形固定資産」の増加383百万円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、26,465百万円(前連結会計年度末比887百万円の減少)となりました。

主な要因は、「有利子負債」の増加225百万円及び「支払手形及び買掛金」の減少1,265百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、30,960百万円(前連結会計年度末比2,717百万円の増加)となりました。

主な要因は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」の計上1,065百万円、「為替換算調整勘定」の増加2,392百万円、「繰延ヘッジ損益」の減少313百万円及び「配当金の支払い」による減少443百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年4月28日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、今後業績予想に修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,787	10,439
受取手形及び売掛金	7,527	8,303
商品及び製品	12,039	12,053
仕掛品	174	292
原材料及び貯蔵品	1,043	1,325
その他	1,883	2,413
貸倒引当金	△87	△100
流動資産合計	33,368	34,726
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,329	9,662
減価償却累計額	△4,555	△4,947
建物及び構築物(純額)	4,773	4,714
機械装置及び運搬具	3,308	3,479
減価償却累計額	△2,788	△2,982
機械装置及び運搬具(純額)	519	496
レンタル資産	14,579	14,941
減価償却累計額	△8,162	△8,215
レンタル資産(純額)	6,417	6,725
土地	3,468	3,480
リース資産	1,135	1,138
減価償却累計額	△944	△994
リース資産(純額)	190	144
建設仮勘定	514	644
その他	3,505	3,803
減価償却累計額	△2,984	△3,220
その他(純額)	521	582
有形固定資産合計	16,405	16,789
無形固定資産		
ソフトウェア	362	401
のれん	2,465	2,582
その他	94	106
無形固定資産合計	2,922	3,091
投資その他の資産		
投資有価証券	68	71
退職給付に係る資産	66	102
繰延税金資産	974	1,009
その他	1,915	1,711
貸倒引当金	△125	△75
投資その他の資産合計	2,899	2,818
固定資産合計	22,227	22,699
資産合計	55,595	57,426

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,058	3,793
短期借入金	2,500	4,050
1年内返済予定の長期借入金	4,764	4,524
リース債務	149	80
未払法人税等	552	251
賞与引当金	597	290
役員賞与引当金	193	115
製品保証引当金	634	704
その他	2,170	2,721
流動負債合計	16,621	16,532
固定負債		
長期借入金	8,503	7,509
リース債務	97	75
繰延税金負債	734	877
役員退職慰労引当金	453	115
退職給付に係る負債	227	255
その他	714	1,098
固定負債合計	10,731	9,932
負債合計	27,352	26,465
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,155	5,155
資本剰余金	5,516	5,516
利益剰余金	15,886	16,508
自己株式	△0	△0
株主資本合計	26,558	27,180
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10	12
繰延ヘッジ損益	113	△200
為替換算調整勘定	1,628	4,020
退職給付に係る調整累計額	△67	△53
その他の包括利益累計額合計	1,684	3,779
非支配株主持分	0	0
純資産合計	28,243	30,960
負債純資産合計	55,595	57,426

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	28,637	32,881
売上原価	17,389	21,558
売上総利益	11,248	11,323
販売費及び一般管理費	8,784	9,608
営業利益	2,463	1,715
営業外収益		
受取利息及び配当金	48	55
受取賃貸料	103	106
為替差益	358	921
その他	19	58
営業外収益合計	530	1,142
営業外費用		
支払利息	87	73
賃貸収入原価	53	56
デリバティブ評価損	-	632
その他	17	33
営業外費用合計	158	795
経常利益	2,836	2,062
特別利益		
固定資産売却益	0	2
投資有価証券売却益	3	-
特別利益合計	4	2
特別損失		
役員退職慰労金	-	338
その他	-	0
特別損失合計	-	338
税金等調整前四半期純利益	2,840	1,725
法人税、住民税及び事業税	610	476
法人税等調整額	96	183
法人税等合計	707	660
四半期純利益	2,132	1,065
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,132	1,065

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	2,132	1,065
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	2
繰延ヘッジ損益	△106	△313
為替換算調整勘定	1,425	2,392
退職給付に係る調整額	13	14
その他の包括利益合計	1,326	2,095
四半期包括利益	3,459	3,160
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,459	3,160
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前期第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	照明器具 関連事業	環境関連事業	インテリア 家具事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	22,749	5,184	703	28,637	28,637
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,627	62	—	2,690	2,690
計	25,377	5,247	703	31,327	31,327
セグメント利益又は損失(△)	2,920	365	△88	3,197	3,197

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,197
セグメント間取引消去	53
未実現利益の調整額	△56
全社費用(注)	△730
四半期連結損益計算書の営業利益	2,463

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	照明器具 関連事業	環境関連事業	インテリア 家具事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	26,181	6,054	645	32,881	32,881
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,416	43	—	3,459	3,459
計	29,597	6,098	645	36,341	36,341
セグメント利益又は損失(△)	1,886	580	△96	2,369	2,369

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,369
セグメント間取引消去	64
未実現利益の調整額	42
全社費用(注)	△761
四半期連結損益計算書の営業利益	1,715

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。